言語文化研究科

学位プログラム：　言語社会
授与する学位：　修士（言語文化学）

教育目標

大阪大学および言語文化研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「言語社会」では以下のとおり教育目標を定めています。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

世界の諸言語とそれを基底とする社会と文化に関する理論と実践にわたる教授・研究を通じて、世界の言語圏についての最先端の高度な専門性と深い学識を身につけた人材を育成します。

○高度な教養

既存の学問領域を越え、世界の諸言語とそれを基底とする社会と文化の全体像を理解するのに求められる異文化理解についての高度な教養を備え、その方法論に習熟し、異文化を複眼的、立体的に捉え、多角的に評価できる人材を育てます。

○高度な国際性

世界の諸言語について、高度な言語運用能力をもち、微妙なニュアンスの違いを理解し、異文化間の豊かなコミュニケーションを実らせることのできる人材を育てます。

○高度なデザイン力

世界の言語とそれを基底とする社会と文化についての深い学識、異文化理解についての幅広い教養と高度な言語運用能力を基礎に、世界の言語や社会・文化の成り立ちと現況に鋭い洞察力をもつとともに、現代世界が直面する新しい多様な課題を提起し、解決の道筋を創造的に構想できる力を備えた人材を育てます。

○独自の教育目標

専攻する言語（中国語、朝鮮語、モンゴル語、インドネシア語、フィリピン語、タイ語、ベトナム語、ビルマ語、ヒンディー語、ウルドゥー語、アラビア語、ペルシア語、トルコ語、スワヒリ語、ロシア語、ハンガリー語、ドイツ語、デンマーク語、スウェーデン語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語）について、四技能（読む、聞く、話す、書く）にわたって高い言語運用能力をもち、高度な学問的内容をもつ長い文章や発表などを理解し、複雑な学問的主張を流暢に表現する能力を涵養する。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

　大阪大学および言語文化研究科のディプロマ・ポリシーのもと、学位プログラム「言語社会」は、世界の言語とそれを基底とする社会・文化に関する高度な専門性と深い学識、教養・国際性・デザイン力を身につけ、所定の研究プログラムに従って定められた単位を修得し、学位論文の審査及び最終試験に合格した学生に学位を授与します。博士前期課程では、以下の「学習目標」を達成したと判定された学生に修士（言語文化学）の学位を授与します。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

・専攻する地域の言語について、最先端の高度な専門性と深い学識を身につけている。
・専攻する地域の文化事象について、最先端の高度な専門性と深い学識を身につけている。
・専攻する地域の歴史社会について、最先端の高度な専門性と深い学識を身につけている。

○高度な教養

・世界の言語、文化、社会について既存の学問分野を越えた学際的で幅広い知識を有している。
・異文化の言語・文化の全体像を理解するための方法について、既存の学問分野を越えた学際的で幅広い学識と知見を身につけている。

○高度な国際性

・高度な外国語の運用能力を駆使して、言語や文化の壁を越え異なる文化を深く理解できる。
・高度な外国語の運用能力を駆使して、言語や文化の壁を越えて交流することができる。

○高度なデザイン力（研究科）

・世界の言語、文化、社会が直面する新たな本質的かつ複雑多様な課題を発見できる。
・グローバルな視野に立って、世界が直面する課題について、多面的柔軟に考えることができる。
・専攻語の能力と、言語圏についての深い学識を活用し、的確なデータ・文献資料収集を通して世界が直面する問題の道筋を構想できる能力を身につけている。

○独自の学習目標

・専攻する言語（中国語、朝鮮語、モンゴル語、インドネシア語、フィリピン語、タイ語、ベトナム語、ビルマ語、ヒンディー語、ウルドゥー語、アラビア語、ペルシア語、トルコ語、スワヒリ語、ロシア語、ハンガリー語、ドイツ語、デンマーク語、スウェーデン語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語）について、四技能（読む、聞く、話す、書く）にわたって高い言語運用能力を有する。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

大阪大学のおよび言語文化研究科のカリキュラム・ポリシーのもと、学位プログラム「言語社会」の教育は、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識や技能を修得させるべく、体系的かつ多様な科目を開設するとともに学位論文の作成等に対する指導によって行われます。

＜教育課程の編成の考え方＞

学位プログラム「言語社会」は、ディプロマ・ポリシーに掲げた知識や技能を涵養するために、体系的で多様な科目を開設し、学位論文の作成に関する指導を行います。

1. 専攻言語：専攻する言語の知識を得るとともに四技能にわたる高い運用能力を涵養するための授業科目群。（中国語、朝鮮語、モンゴル語、インドネシア語、フィリピン語、タイ語、ベトナム語、ビルマ語、ヒンディー語、ウルドゥー語、アラビア語、ペルシア語、トルコ語、スワヒリ語、ロシア語、ハンガリー語、ドイツ語、デンマーク語、スウェーデン語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語）
2. 地域言語論：専攻する言語圏の言語、文化表象、歴史と社会についての専門的な知識を涵養するための授業科目群。（アジア言語構造論、ヨーロッパ言語構造論、アジア言語文化表象論、ヨーロッパ言語文化表象論、アジア言語文化資源論、アフリカ言語構造論、アジア言語社会構造論、ヨーロッパ言語社会構造論、アジア言語社会動態論、ヨーロッパ言語社会動態論等）
3. 広域言語論：グローバルな観点から専攻する言語圏の言語と文化を捉える力を養うための授業科目群。（広域言語実践論、広域言語文化論、広域対象言語論等）
4. 地域言語社会特論：専攻する言語圏の言語と文化の特定の課題に関する研究を行う授業科目群。（世界文学・文化論、アジア・アフリカ言語社会研究序説、ヨーロッパ・アメリカ言語社会研究序説等）
5. 複合領域特論：多様な領域にまたがるテーマを研究する授業科目群。（現代ジャーナリズム論、言語文化資源の活用と情報処理研究、通訳翻訳学特講、多言語共生社会演習等）
6. 関連研究言語：専攻言語以外の言語に関する知識を得るための科目群。（アイヌ語、現代チベット語、西アフリカ諸語、リトアニア語、ラテン語等）

学生は、専攻語を基軸とし、これらの科目群を体系的に履修し、所定の研究指導プログラムに従って、各専攻言語の教員を中心にした２名の教員の指導の下に、中間発表、最終発表を行い、修士論文を作成します。

＜学修内容及び学修方法＞

授業の形式は、学生自身による問題解決型の学習を取り入れ、各専門教育科目の教授内容に合わせ、講義、演習等の多様な手法で行われる。また、高度教養教育科目ならびに国際性涵養教育科目をそれぞれ２単位修得します。

＜学修成果の評価方法＞

学修の成果は、各専門科目のシラバスなどに記載されている成績評価の方法（試験や課題、レポートなど）を用いて評価します。

言語文化研究科言語社会専攻博士前期課程のカリキュラム・マップ

［専門教育科目　概要］

1. 専攻言語【必修】
   専攻とする言語の知識を得るとともに運用能力を高めるための授業科目群
2. 地域言語論
   専攻する言語圏の言語，文化表象，歴史と社会についての専門的な知識を得るための授業科目群
3. 広域言語論
   グローバルな視点から専攻する言語圏の言語と文化を捉える力を養うための授業科目群
4. 地域言語社会特論
   専攻する言語圏の言語と文化の特定テーマに関する研究を行う授業科目群
5. 複合領域特論
   多様な領域にまたがるテーマを研究する授業科目群
6. 関連研究言語
   研究に必要な専攻言語以外の言語に関する知識を得るための科目群

［修了要件単位数］

専門教育科目	高度国際性涵養教育科目	高度教養教育科目	
20単位以上	2単位以上	2単位以上	→ 左記の要件を満たした上で，合計30単位以上を修得

修士（言語文化学）の学位授与

↑

論文審査及び最終試験に合格

↑

高度なデザイン力

修士論文の作成

↑

○授業科目

必修科目

独自の教育目標

最先端かつ高度な専門性と深い教養

1．専攻言語（特別演習）　※同一の言語で８単位を修得（うち２単位を高度国際性涵養教育科目に充当）

中国語　朝鮮語　モンゴル語　インドネシア語　フィリピノ語　タイ語　ベトナム語　ビルマ語　ヒンディー語　ウルドゥー語　アラビア語　ペルシア語
トルコ語　スワヒリ語　ロシア語　ハンガリー語　ドイツ語　デンマーク語　スウェーデン語　英語　フランス語　イタリア語　スペイン語　ポルトガル語

選択科目

高度な国際性

高度な教養

2．地域言語論

アジア言語構造論Ⅰ～XVIII
アジア言語文化表象論Ⅰ～XVIII
アジア言語文化資源論Ⅰ～IX
アジア言語社会構造論Ⅰ～Ⅲ
アジア言語社会動態論Ⅰ～Ⅶ
アフリカ言語構造論Ⅰ～Ⅱ
アフリカ言語社会構造論Ⅰ～Ⅱ
ヨーロッパ言語構造論Ⅰ～IX
ヨーロッパ言語文化表象論Ⅰ～Ⅴ
ヨーロッパ言語社会構造論Ⅰ～Ⅳ
ヨーロッパ言語社会動態論Ⅰ～Ⅶ
イギリス言語文化表象論Ⅰ
イギリス言語文化資源論Ⅰ
イギリス言語社会動態論Ⅰ
アメリカ言語構造論Ⅰ
アメリカ言語文化表象論Ⅰ～Ⅳ
アメリカ言語社会構造論Ⅰ
アメリカ言語社会動態論Ⅰ

3．広域言語論

広域言語実践論Ⅰ～Ⅶ
広域言語文化論Ⅰ～Ⅴ
広域対照言語論Ⅰ～Ⅴ
広域言語動態論Ⅰ～Ⅱ

4．地域言語社会特論

外国語教授学習研究
現代英米政治外交史特殊研究
ヨーロッパ・アメリカ言語社会研究序説
英米言語社会論
世界文学・文化論
アジア・アフリカ言語社会研究序説
アジア言語動態論
アジア地域社会論

5．複合領域特論

現代ジャーナリズム論
ヨーロッパ比較文化動態論
地政学的研究特論
通訳翻訳学特講
生涯学習論
広域イスラム社会論
言語文化資源の活用と情報処理研究
多言語共生社会演習

6．関連研究言語

古典漢語　アイヌ語　現代チベット語　古典チベット語　カレン語　シャン語
モン＝クメール諸語　オセアニア諸語　サンスクリット語　パーリ語
ベンガル語　ウィグル語　ソグド語　カザフ語　オスマン語　ヘブライ語
アラム語　シリア語　西アフリカ諸語　東・南アフリカ諸語　古代教会スラブ語
ウクライナ語　ポーランド語　リトアニア語　エスペラント語　ラテン語
ギリシャ語　ウズベク語　セルビア語　グルジア語　チェコ語

○研究指導プログラム

⑦修士論文題目の提出（M2）
↑
⑥最終発表会（M2）
↑
⑤修士論文テーマの決定及び修士論文概要の提出（M2）
↑
④予備審査面接（M2）
↑
③中間発表会（M1）
↑
②修士論文構想の提出（M1）
↑
①研究計画書の提出（M1）